

平成 26 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ フジオカアユミ
氏名 藤岡阿由未

研究期間 平成 26 年度

研究課題名 女優の異文化接触におけるダイナミクス考察
— 帝劇女優・森律子のロンドン滞在 (1913) を中心に —

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	藤岡阿由未	国際コミュニケーション学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、日本近代演劇における女優の異文化接触が何をもたらすかを考察することを目的としている。帝国劇場のスター女優森律子は、渡英経験をもつ日本の最初期の女優の一人である。本研究では、日本近代演劇において女優の異文化接触がどのような意味をもつのかを考察することにしたい。森律子が滞在した 1913 年のイギリスの演劇界では、いわゆる「ニュー・ウーマン」の内面的な自我の目覚めと政治的目覚めという大きな変動のただ中であつたが、森律子はその変容に直に接触したのである。異文化接触、そしてジェンダー変容への接触という二重の摩擦は、森律子にいったい何をもたらしたのか。また、それが日本近代演劇においてどのような意味を持つのかを考察した。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

資料収集→資料精査→研究発表準備

- ・近代演劇関連文献の多くは、申請者が個人研究室にすでに所持。
- ・日本近代演劇関連の文献を新たに購入予定。
- ・帝国劇場の関連資料は早稲田大学演劇博物館にて調査予定。
- ・森律子のロンドン滞在関連資料の多くは、申請者が個人研究室にすでに所持。

研究発表 F I R T (国際演劇学会 ウォリック大学平成 26 年 7 月 28 日～8 月 2 日開催) にて口頭発表予定

論文執筆 研究発表をふまえて論文を執筆し成果を発表 (平成 27 年度に発表予定) する。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

昨今の近代演劇研究においては、異文化接触というテーマが重要視されることが多い。これは、演劇研究の中心が、以前の各国文学に基づく戯曲研究から上演研究へと移行したことで、上演に携わる人の移動と異文化接触の問題がクローズ・アップされたことによるものである。そういった研究動向のなかで、男性の演出家や俳優による異文化接触については、すでに研究が進んできていると言っていいだろう。しかし女優の異文化接触については、まだほとんど扱われていなかった。おそらくこれは、女優はすなわち客体であるという旧来の認識が背景にあると考えられる。しかしながら、近代演劇における女優たちは、内面的な自我の目覚めと政治的目覚めの問題と無関係ではない。女優による異文化接触は、旧来の客体としての女優観に回収されるものではなく、この文脈は十分に再検討の余地があると考えられるのである。以上のような主体としての女優の異文化接触というコンテキストは、研究の発展の可能性があると想定して研究をすすめた。研究をすすめると、帝劇女優というスター女優として認知されていた森律子は渡英経験によって日本の女優の地位を高めていくフェミニストとしての強い意識を持つようになったことが明らかになった。

報告者は平成 24 年度椋山女学園学園研究費 B の助成によって「女優による異文化接触と＜ニュー・ウーマン＞の国際化—エリザベス・ロビンズを中心に—」および今年度の「女優の異文化接触におけるダイナミクス考察—帝劇女優・森律子のロンドン滞在 (1913)」によって上記の研究を補完しようと試みた。なお F I R T (国際演劇学会 ウォリック大学 2014 年 7 月 28 日～8 月 2 日開催) での口頭発表では、女優の異文化接触というこれまで焦点が当たりにくかったテーマへの議論を行うことができた。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①近代演劇	②女優	③フェミニスト	④表象
⑤多文化主義	⑥移動	⑦異文化接触	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

F I R T (国際演劇学会 ウォリック大学 2014 年 7 月 28 日～8 月 2 日開催) にて口頭発表
椋山女学園大学研究論集 (27 年度) 投稿予定